

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
知財戦略マネジメント論 <b>Strategic Intellectual Property Management</b>		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
技術戦略経営				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスイノベーション論				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
知的財産とは、人が考え出した発明やアイデア、デザイン、音楽、小説など「かたちのない財産」のことであり、これらは「知的財産権」という権利として法的に保護されている。本授業は、この“知財”をキーワードに最新のビジネス・スキルの修得を目標とし、技術・制度・市場のグローバル化問題に対し、知財戦略をマネジメントの立場から捉え、①「国際競争力の強化」、②「国際市場展開の強化」、③「オープン・イノベーション下でのリーダーシップ」の3点から学習する。				
授業の到達目標				
①「知財の意味と歴史」を理解することができるようにする。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」を理解することができるようにする。 ③「知財戦略」を理解することができるようにする。 ④「知財の情報開示と証券化」を理解することができるようにする。 ⑤「知財とグローバル戦略」を理解することができるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、“知財戦略マネジメント”に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果				
①「知財の意味と歴史」を理解し、第三者に説明することができる。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」を理解し、第三者に説明することができる。 ③「知財戦略」を理解し、第三者に説明することができる。 ④「知財の情報開示と証券化」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑤「知財とグローバル戦略」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法が身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	知財の意味を考える①(創造戦略/権利化戦略/活用戦略/管理戦略/インフラ戦略)			
第3回目	知財の意味を考える②(知財活用事例:ヘルシア緑茶 versus コカ・コーラ、Appleとサムスン電子のスマホ訴訟合戦)			
第4回目	知財の歴史			
第5回目	技術開発の保護:社内規定の整備→職務発明規定と営業秘密管理規定			
第6回目	工業デザイン・営業標識の保護:商標権侵害←警告書への対応			

第7回目	創作的な表現の保護:著作権と特許権の違い		
第8回目	知財の国際的保護:属地主義を原則に条約により国際調和をはかる		
第9回目	知財戦略:デファクトスタンダード ( de facto standard ) ;市場における競争や広く採用された「結果として事実上標準化した基準」←最強の参入障壁		
第10回目	知財の情報開示:知財管理の一般的業務構成		
第11回目	知財の証券化:知財信託 管理型・資金調達型		
第12回目	知財人材の育成:知財スキル標準→世界初、知的財産パーソン育成のための“指標”		
第13回目	知財立国とグローバル戦略		
第14回目	知財スキルと標準化:グローバル戦略のための人材マネジメント		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する:①ノートを取り、創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート		30%	以下の3点から評価する:①創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③課題の本質を理解し、まとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	グループワークによるプレゼンテーション力を試験し、以下の3点から評価する:①内容が創意工夫されてまとめ上げられている、②グループの意見が論理的に述べられている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
発表内容 (態度含む)		20%	レポート発表は、以下の3点から評価する:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[知財戦略マネジメント論 2013年度版]”を活用する。			
履修上の心得・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			